

構造NEWS



地域の情報 . . .

・静岡県建築基準条例・同解説(平成29年版)が公表されました
<http://www.pref.shizuoka.jp/kenmin/km-340/>

出版物情報 . . .

・技術基準解説書のQ&Aが更新されました(No.44~57)
<http://www.icba.or.jp/kenchikuhorei>

ERI情報 . . .

・建築物省エネ法の講習会を開催いたします(名古屋 9/12)
<http://www.j-eri.co.jp/siten/siten.html>

ERIの構造Q&A



ルート1とルート3とを、方向別に併用した場合、ルート3の方向については、仕様規定を除外できますか？

残念ながら除外できません。
 通常、ルート3の計算ルートを適用した場合、令第36条第2項第一号に規定された仕様規定を満たせば足りませんが、告示189号を適用して方向別に計算ルートを併用する場合、同告示第二号柱書き部分にある通り、仕様規定は外せないことになってしまいますね。基準解説書ではP46に解説がありますので、参考にしてください。



ERI - 1 グランプリ . neo

~そで壁付き柱の部材種別算定について~

あるRC柱の部材種別算定時に柱に接着する梁の崩壊形に達する場合の塑性ヒンジを確認しているのに、確認検査機関から「**ho/Dを2M/(Q・D)に変更不可では**」と指摘されたけど何故なんだろう？



教えて下さい！

キミ、その指摘されたRC柱は「**そで壁付きの柱**」じゃなかったかい？

確かにそうだけど・・・まさか又、2015年版技術基準解説書(黄色本)の話をする気か？



ふむふむ！



おやつさん！

うむ、その通り。柱部材種別でho/Dに替えて2M/(Q・D)を用いることができるとするのは「**昭55建告第1792号第4第一号の表下の二**」に記載されていて一見キミの言う通り柱に接着する梁の塑性ヒンジを確認すれば良いと感じるんだが、

ho: 柱の内り高さ
 D: 柱の幅
 M: 崩壊形に達する場合の当該柱の最大曲げモーメント
 Q: 崩壊形に達する場合の当該柱の最大せん断力



OK

それとは別に「**2015年版黄色本p.393**」に「**そで壁付きの柱**」の部材種別の算定方法が記載されていて該当文章の最後に「**このとき、ho/Dを2M/(Q・D)に替えないこととする。**」と記載があるんだよ



師匠！

なるほど～、だから指摘されたのか。「**2007年版黄色本p.368**」にも同様な算出方法が記載されているが、ho/Dを2M/(Q・D)に替えることについては記載がない!!

2015年版黄色本で変更又は追加された内容は他にもありそうだから気を付ける必要がありそうだな！



OK



師匠！

そうだね、例えば同ページ(2015年版黄色本p.393)では「**側柱の断面積がst/2未満の場合、または、側柱の最小径が1st/3未満または2t未満の場合には、その耐力壁の部材種別は壁式構造の場合のcu/Fcを用いること**」と記載されているんだ

s: 壁板の内法長さと同法高さの小さい方
 t: 壁板の厚さ
 σ: Dsを算定しようとする階が崩壊形に達する場合の柱の断面に生ずる平均せん断応力度
 Fc: コンクリートの設計基準強度

図像は株式会社ウチナーセンターインストのPMSスタンプを引用。



師匠！

編集後記



もうすぐ秋ですね。蒸し暑い夏から解放されると思うとうれしくなります。一方、夏から秋への変り目は少しさびしい気持ちになりませんか。だんだんではなく急にカラッと澄んだ秋の空気が変わったり、また、ふと気付くと日が落ちるのが早くなったりなど、いざ夏とお別れすると感じた瞬間、後ろ髪を引かれる思いがします。(夏とは来年また会えるから、まあいいか。)



8/27
岐阜県七宗町飛水峡